

「敷く畳から持ったたみへ」をコンセプトに独自ブランドの畳小物を販売

織田畳店 奈良県磯城郡田原本町

創業以来約120年の歴史をもつ織田畳店は、独自ブランド「織田たたみ®」を立ち上げ、畳表を使用した財布や小物入れ等の畳小物を販売している。「敷く畳から持ったたみへ」をコンセプトにしたその取組みは、テレビ番組や新聞、雑誌等複数のメディアに取り上げられ注目されている。

同店4代目の織田^{おさむ}理氏が同ブランドに取り組んだきっかけは、2011年ごろに畳のPRと実用を兼ねて、妻の吉美さんとともに畳の端材で携帯電話ポーチを製作したこと。背景には住宅の洋風化等で畳の需要が減少していることへの危機感があった。それを見た知人から作ってほしいと頼まれ、製作するうちに口コミで評判となり、「買いたい」という人も現れた。

キーケースや財布等の新作をFacebookやブログで発表するたびに反響が大きくなり、取組みに手ごたえを感じた織田氏は、2013年10月に「織田たたみ®」の商標を登録。畳表を使用したティッシュボックスや敷物等を製造・販売するようになった。

しかし小物の中でも財布づくりは、工程が複雑かつ工数も多く、本業の合間を縫っての製作ではとても販売できる代物ではなかった。何より「財布づくりに関しては素人の自分が作ったものを、商品として売っていいのか葛藤があった」と織田氏は振り返る。

地元商工会の助言を受けて製造委託先を探す中、奈良の財布職人と出会い「『本物』をつくりたい」という理念で一致。綿密な打ち合わせの結果、出来上がった試作品を一目見て「いける」という確信が得られたという。

その後も改良を経て、2015年3月に販売を開始したのが「葵<Aoi>」シリーズ。樹脂製の国産畳表と本革を外装に、西陣織を内装に使用し、県内で丁寧に縫製した旗艦モデルである。

2016年5月には、熊本産のい草を使った「雛<Hiina>」シリーズの販売開始。

熊本産のい草は香りや肌ざわりがよく、使えば使うほど味わいが出てくる。樹脂製に比べ防水性や耐久性は低いものの、葵シリーズ同様に畳表を『張替え』できるメンテナンス性が高く評価され、2016年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞している。

現在、これらの商品は同店店頭やネットショップの他、奈良県立万葉文化館のミュージアムショップや県外のセレクトショップ等でも販売されている。また奈良県の支援を受けて、本年2月に開催される国際ギフト展「NYNOW2017」（ニューヨーク）への出展も決まっている。

織田氏は「『日本が誇る畳文化に新しい価値を持たせる』と理想を高く持って、ブランドを大事に育てていきたい」と意気込みを語る。

（太田宜志、丸尾尚史）

GOOD DESIGN AWARD 2016



ひいな
「雛 ラウンド財布」（左）、
あおい
「葵 名刺入れ」（下）、唐古・鍵遺跡の楼閣をあしらったブランドロゴ（左下）



織田畳店

〒636-0315
奈良県磯城郡田原本町幸町 152-2
TEL/FAX : 0744-32-0644
URL : <http://www.oda-tatami.jp/>
E-mail : info@oda-tatami.jp



織田 理 氏